



FFGビジネス
コンサルティングの
釣道 ちょっと
つりみち
[有明海の伝説・ヒラ編]
Vol.12



①「大魚神社」前ではしゃぐ筆者。満潮時には海中鳥居が海に沈み、インスタスポットとしても有名 ②③④⑤ヒラは群れにあたれば大漁なんです。FFGのメンバーでチャレンジ!

「月の引力が見える町」国道207号線沿線の有明海に面した風光明媚な地域、太良。

有明海は干満の差が6mほどある特異な海域として全国的に有名です。その沿岸を走る国道には、車で5分程度の間隔に違う町が経営する道の駅が二つもありま

す。長崎に行く機会が増えている中、JRの車窓を眺めているとふと途中下車したくなりました。

駅から降り立つと、干潟に真っ赤な鳥居が並んでいる珍妙な光景が目に残りました。この地には、大きな魚「ナミウオ」が悪代官を更生させた伝説があり、それを祀るために建立された「大魚神社」があります。また干潟に向い鳥居が続き、その横には潮が満ちると海に沈む波止「海中道路」が沖側に続いています。

「大魚つて、そんなのがここにいるかねえww」

少し南の、沖合いに突き出た半島まで足を延ばすと、日が落ちた暗い水面に灯りが当たりたくさんの小魚等が水面に群れ、それを追う魚でざわついています。筆者は竿を出さずにいられませんでした。

細長いワームと呼ばれる疑似餌を漂わせると、微かな、しかし鋭い魚信を感じ、瞬間的に針をかけた。水面で暴れる時にはジャンプして激しく抵抗するその魚は、暗い中で魚体がキラキラ輝き目はルビー色に妖しく光っています。国内でもここ有明海か瀬戸内海などにしか生息しない魚、「ヒラ」です。

「確かに大きくて目も紅く光るニシンの化け物みたいな神秘的な魚だけど、ナミウオってこれじゃないよな」

50cmはあるその魚体と独特な体表の匂いに怖気つきながらも、筆者はそのファイトを堪能しました。穏やかな海面には満月が揺らぎながら有明海を照らしています。終電はもはやありませんでした(泣)。



釣れたヒラはFFGのメンバーで調理し、美味しくいただきました